



1 磨製石斧（ませいせきふ）

重要文化財

朝日遺跡(清須市・名古屋市西区)

弥生時代

本館蔵

朝日遺跡では、大小様々な形の磨製石斧が出土しています。多くはハイアロクラスタイトという青色の硬く重い石材で作られています。丁寧に磨かれた石器の表面は光沢を帯び、工芸品としての美しさも持っています。



2 斧柄（おのえ）

重要文化財

朝日遺跡(清須市・名古屋市西区)

弥生時代

本館蔵

出土した木製品からは、斧の柄が複数見つかっています。伐採用の縦斧の柄、加工用の横斧の柄、そして鉄斧用とみられるものもあります。朝日遺跡の主要な斧柄を展示します。



3 袋状鉄斧（ふくろじょうてつぶ）

吉竹遺跡(新城市)

弥生時代後期

愛知県埋蔵文化財調査センター蔵

弥生時代後期になると石斧はほとんど見られなくなることから、鉄斧が普及してきたと考えられています。本資料は弥生時代後期の集落遺跡から出土した加工用の鉄斧です。この他、瀬戸市長谷口（はせぐち）遺跡、新城市石座（いわくら）神社遺跡等の鉄斧資料を展示します。



4 柄付石斧（えつきせきふ）

パプアニューギニア民族資料

現代

南山大学人類学博物館蔵

南太平洋のニューギニア島の山地民は、20世紀に入っても石斧を使い続けていました。南山大学の東ニューギニア学術調査団が収集した貴重な石斧資料を展示し、縄文時代や弥生時代の石斧と比較します。